



# かどや通信

第34号

発行日：令和元年9月吉日

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

## 二度目の正直！ 豪華客船客が大勢やって来た！

豪華客船による船旅がブームになっており、英国船籍の「ダイヤモンド・プリンセス(DP)」(二一五、八七五トン)が八月二十四日、乗客約二千八百人を乗せて鳥羽港に入港した。

同船は四月四日にも入港しており、五月十日にはマルタ船籍の「Europe(オイローパ2)」(四二、八三〇トン)も約四百五十人を乗せて入港した。両船とも乗客の一部は伊勢神宮や賢島等に向ったが、鳥羽市内で散策等を楽しむ人も多かった。ところが、かどやに入館したのは、DPが約四十人、「Europe2」にいたっては二人だけだった。



かどやでは豪華客船を迎えるに当たり、海外の人たちになかまち鳥羽二丁目〜四丁目界隈で楽しんでもらえる絶好の機会と捉え、鳥羽なかまち会

と連携し、市役所や商工会議所の協力

を得て、乗客に配布する鳥羽街歩きマップになかまちなを明記してもらった。

かどやも茶道体験等を準備して乗客の到来を待ったが、結果は期待を大きくはずれてしまった。

そこで八月はもっと大勢に来てもらおうと、なかまち会議で討議し、入港日が土曜日でもあり、地元の人たちに人気のなかまちマーケットの開催を決めた。しかし問題なのは、湿度の高い夏の暑さだ。そこで、開始時間を八時に繰り上げ、さらに日本ならではの夏を体験してもらおうと、西念寺では流しそうめんを、門前の空き地ではなかまち会のメニューがかけ氷のふるまい等も行った。その結果、マーケットを楽しみにやって来た地元の人たちに交じって、これまでにない大勢の乗客がなかまちを歩いてくれた。

かどやは前回同様、毎月茶道教室を開いている裏千家の千草宗石さん



お点前に挑戦する香港の少年

さんが茶道体験を行い、日本人を含む約四十人が参加。また江戸時代に建てられた家屋や庭園も人気で、館内見学だけでも四十人以上が入館してくれた。スタッフは対応に大わらわだったが、これまでの苦勞が報われたようで「二度目の正直やね！疲れたけど、楽しかった」と笑顔がこぼれた。

今回は、鳥羽市の行政機関の受け入れ態勢も充実し、乗船客が上陸するマリナーミナルにはボランティア通訳等もスタンバイしており、市内の施設紹介でもなかまちを積極的にPRしてくれたのが功を奏した。官民一体となった対応が大きき力を発揮したよい例となった。

なお、DPは九月二十四日と十一月二十二日、十二月八日にも入港の予定。スタッフと茶道組は「次も頑張ろう！」と気合を入れた。



茶道体験を楽しんだ一人旅のオーストラリア女性(前列中央)

## かどやの夏休み! 今年も子供たちがやって来た!

かどやでは毎年、夏休みには子ども達にかどやを利用してもらうおつと「寺子屋をはじめ、夏休みの思い出作りに役立つようなプログラムを提供しており、今年も子供たちの笑い声が館内に響いた。

### 《寺子屋で仲良しの輪広がる》

クーラーの効いた涼しい座敷で子供たちが夏休みの宿題に取り組み恒例の「寺子屋」が、七月二十一日から八月九日まで行われ、十二名（一年生二名、二年生二名、三年生三名、五年生五名）延べ八十八名が参加した。



時間は、従来通り平日の九時半から十二時までで、十時半から約十五分間は休憩時間だ。最初のうちは皆熱心に宿題に取り組んでいるが、十時を過ぎると「休憩まであと何分?」とソワソワ動き出す子も。一年生は初日、慣れない環境に固くなっていたが、徐々に上級生

とも話しをするようになっていった。どの学年も宿題で分からないところが出てくると、互いに教え合い、効率よく宿題をこなしていた。そのため、十一時を過ぎると時間を持たず、あます子たちも多く、付添いスタッフを慌てさせた。休憩時間後にミニクッキング講座を設けて全員でゼリー作りをしたり、ピアノの得意なスタッフの伴奏で合唱したことも。今年も六年生がいなかったが、五年生が下級生の面倒もよくみてくれて、仲良しの輪が広がった。

### ワクワクことも塾 今年は何を作ろうかな?

夏休みの思い出作りのプログラムとして毎年「ワクワクことも塾」を実施している。今年は八月七日に「羊毛フェルトでハムスターのフロイチを作ろう」、十八日に「ダンボール工作とフルーツポンチ作り」を行った。

### 《羊毛フェルトに熱中!》

「羊毛フェルトでハムスターのフロイチを作ろう」には小学三年生から五年生の女子六名が参加した。指導にあたったのは、今年四月から羊毛フェルト教室「めぐぐ倶楽部」を開講している「めぐぐ」こと蘭田恵



さんだ。めぐぐちゃんは昨年九月にかどやで「メグのこにこ動物園」と題した展示会を開催。かわうそやハムスター、ミニブタ、うさぎ等が「めちゃくちゃかわいい!」と大評判となり、体験教室を経て、「めぐぐ倶楽部」が誕生した。羊毛フェルトは羊毛を特殊な針でつついて繊維をからめながら形を作っていくので、慣れないうちは針だけがをすることもある。「めぐぐ倶楽部」でも当初は針で指をつつく人もいたが、それでも楽しいらしく、教室には笑いが絶えぬ。そこで、めぐぐちゃんは、子ども達にもこの楽しさを知ってもらおうと、こども塾のプログラムに名乗りをあげたのである。

指をつついてしまつ子はいたが、少しずつ形ができてくるのが楽しいらしく、痛さにめげず、熱心に羊毛をつついていた。かわいさの決め手となる目や口の付け方には随分苦心していたが、その甲斐あって、かわいいハムスターが出来上がった。表情は少しずつ異なるが、皆満足げに完成品を見せ合っていた。

### 《初の段ボール工作にワクワクドキ》

「ダンボール工作とフルーツポンチ作り」には十人が参加した。今年も、毎回大人気の白玉入りフルーツポンチ作りから始まった。

①缶切り②白玉作り③スイカの実のくり抜き④バナナとパイナップルのカッターの4班に分かれ、各班にかどやのスタッフが付添って作業を進めた。最近の缶詰は、プルトップ式が多く、缶切りを使う機会は少ないが、プルトップの蓋は手切りやすいし、非常時に備えて缶切りの使い方も知ってもらおうと、スタッフがあえて缶切りが必要な缶詰を探して挑戦してもらった。

その後、庭に出て、沖本直美さん指導のもと、段ボール工作にとりかかった。全員が初めての挑戦で、最初は戸惑っていたが、慣れるに従い、アイデアを絞り、ユニークな段ボールアートが出来上がった。



その後、クーラーの効いた室内に戻り、冷やしておいたフルーツポンチに舌鼓を打った。

## シヤチヤジュゴンが悠々と まるで海の中！佐藤紘子作品展！

八月の展示は、「ここは、海のなか」と題した大阪府高槻市在住の画家・佐藤紘子さんの作品展だった。

鳥羽市は「鳥羽うみアートプロジェクト」と題して芸術を活かした観光振興を推進している。その一環として、佐藤さんは昨年八月～十月、ザトウクジラを描いた横十メートル、縦四メートルの大作を鳥羽市海の博物館で展示。それが縁となり今年二月にジュゴンを描いた新作（縦・横とも一・九四メートル）を鳥羽市に寄贈した。



やに居ながら、まるで海の中

にいるような臨場感があった。見学者は「生き生きしていて迫力があり、圧倒されました」



と話す。また、革にコアラやカバ、うさぎ等、陸の動物を描いたものや、小動物のユーモラスな後ろ姿等も展示された。

佐藤さんは絵画教室も主宰しており、鳥羽でも油絵に親しんでもらうきっかけを作り、八月十一日、十七日、二十三日にかどやで講習会を開催し、小学生六名と大人五名が参加した。参加者は全員、油絵は初めてだったが、それぞれに個性が光る魅力的な作品に仕上がった。子供さんと一緒に参加したお母さんは、優しい筆使いでかどやの庭を描き、「一度油絵に挑戦してみたかったのですね、いい経験になりました」と満足そうに話してく



れた。

## 技光る！行灯と伊賀焼 旧知の友と二人展

九月は「初秋を彩る行灯と伊賀焼の二人展」が開催された。



行灯は、鳥羽市松尾町の野村眞さんの作品だ。三年前に京都で竹細工の行灯に魅せられ、独学で行灯作りを始め、昨

年二月にはかどやで越前和紙を使った作品を披露した。今回は、美濃和紙を使い、ヒノキで枠組みしたものを中心に、藤のつるを土台にしたユニークな作品等も出展した。

美濃和紙は、土佐、越前と並ぶ日本三大和紙で、薄くて丈夫、光を通すと美しい光を放つため江戸時代には高級障子紙として高い評価を得ており、二〇一四年にはユネスコの無形文化遺産に登録された。

その美濃和紙を使った野村さんの作品は、柔らかくで気品に満ちており、見学者からは「見ていると、心が穏やかになり、癒されます」等の声が寄せられた。



伊賀焼は、津市の近藤雅人さんの作品で、伊賀焼の中でも古伊賀と呼ばれる桃山時代の技術を踏襲した約九十点が展示された。古伊賀はろくろを

使わず、手捻りで成形し、千四百度の登り窯で四昼夜焼きしめていくもので、釉薬は使わず、伊賀の土に含まれている成分が高熱で溶け出して色合いが決まる。近藤さんの作品は、茶道が盛んな時代の「わび」が見事に表現されたものばかりで、茶道の心得のある人たちも見学に来られ、魅せられていた。

なお、野村さんと近藤さんは、職場は異なるが、共に元公務員で、仕事を通して三十五年来の交流があったことから、二人展が実現した。



**猛暑をしのぐ涼やかな音色！  
嵐下がりコンサート**

《二胡で癒しのひとときを》

伊勢市の中国茶房「茶KURAI」ではカルチャー教室も開いており、剣山啓助氏率いる二胡教室の生徒で結成した悠遊グループ（松崎幸勝さん、浜口和男さん、須永知佐さん）と剣山氏が七月二十日、かどや嵐下がりコンサートに出演した。まず、悠遊グループの皆さんが全員で「荒城の月」を演奏し、



その後、一人ずつ得意の曲を披露した。演奏はもちろん話術も楽しく、聴衆の心をつかんでいた。

後半は剣山氏がソロで登場。シャブリリストとしても活躍している剣山氏は、レパートリーが幅広く、唱歌から歌謡曲、ジャズやタンゴ等約十曲を一気に演奏し、二胡の優しい音色の素晴らしい素晴らしさを届けてくれた。



《クラシックの名曲を聴こう》

七月二十八日には「バイオリンとピアノで奏でる初夏の音色」と題し、光田真知子さんのピアノと三村淑子さんのバイオリンでバッハやモーツァルト等クラシックの名曲を中心にしたコンサートを行った。この選曲は、子ども達に本格的なクラシックの音色に親しんでもらうためだったが、この日は子ども会の行事等と重なったため、子ども達の参加はゼロだった。しかし「こんな場所で本格的なクラシック音楽が聴けて、嬉しかった」と参加者には大好評だった。



**法人会員募集のお知らせ**

かどや保存会は、人々が楽しく集い、地域活性化に寄与する活動を支援して下さる法人会員を募集しています。  
年会費…一〇一万円  
御協力いただきますと、当紙に企業名を掲載し、館内にも明示します。  
御協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効にご利用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。  
電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

**かどや保存会 平成31年度会員募集中!**

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで平成30年度は351名の方にご登録いただきました。31年度は9月15日現在で274名のご登録をいただきましたが、昨年の同時期より約40名少ないのが現状です。一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、引き続きご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751